

令和5年度 第3回学校運営協議会 会議録 (要点記録)

- 1 開催日時 令和5年11月20日(月) 13時45分から15時30分まで
- 2 開催場所 与進北小学校 ひだまり
- 3 出席委員 稲田 定彦、栗田 孝代、平尾 賢弘、中根 その美
田光 美智代、富田 真悟、岩本 晃輔、佐藤 真
石田 みゆき(学校支援コーディネーター)
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 村田 弘貴(長上協働センター主事)
- 6 学校 河合 勝之(校長)、古橋 拓実(教頭)、磯部 真代(CS担当)
瀧本 恵子(CSディレクター)
- 7 教育委員会 堀田 洋一(教育総務課)
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 瀧本 恵子

10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、稲田会長から富田委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを了承した。

11 協議事項

(1) 報告

- ・ 学校教育活動への地域支援の報告
- ・ 「未来の学校」(夏休みに実施)
- ・ お話会
- ・ 全国学力調査

(2) 本校のCSの成果と今後の方向性について

- ・ グループでの話し合い
- ・ 全体での話し合い

12 会議記録

司会の古橋教頭から、委員全員が出席しており、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 報告

議長の指示により、学校支援コーディネーターの石田委員から、学校教育活動への地域支援について以下のように報告があった。

- ・ 9月からの支援が決まり、1、2、4、5、6年生に地域・企業・団体の協力を得ることができた。
- ・「笑顔あふれる学校づくりプロジェクト」のちらしを作り、地域の方々に「ながら見守り」をしてもらえるように呼び掛けた。庭掃除をしながら、通勤をしながら、散歩をしながら子供たちを見守ってもらい、近所同士で情報を共有して、気付いたことを学校に知らせてもらえたらと思う。ちらしは協働センターに掲示してもらい、長上交番にも協力をお願いした。
- ・学校のホームページやブログを保護者が意外と見ていないことが分かった。若い保護者の使用する媒体が複雑化しているので、こちらも気にしたい。
 続いて議長の指示により、教務主任から「未来の学校」についての報告があった。8月7日に京都大学の小松郁夫教授をお招きして行った。
 続いて議長の指示により、田光委員から11月16日に行ったお話し会について以下のように報告があった。
- ・きんもくせいの会の方々に来ていただき、ペープ・サート、パネルシアター、大型絵本の読み聞かせ、手遊びを行った。
- ・からすのパンやさんの折り紙を子供たちにおみやげとして手渡した。
- ・久しぶりに行ったが、たくさんの子が来てくれ、みんな喜んでいて。来年もやりたいと思う。
 最後に議長の指示により、教務主任から全国学力調査について別紙の資料を基に以下のように報告があった。
- ・必要な情報を自分で考えて導き出すような、思考力を必要とする問題で課題が多かった。
- ・質問紙による調査では、英語の勉強を大切だと思ふ子や、ICT機器を使うことが勉強の役に立つと思ふ子が多かった。
- ・普段の生活の中で幸せな気持ちになると回答した子が多く、子供たちの心の安定が窺える嬉しい内容もあった。
 議長より以上について質問等があるか確認があり、全員異議なく了承した。

(2) 本校のCSの成果と今後の方向性について

資料の8ページについてA・Bの2グループに分かれて話し合いをした。

- ・ Aグループ 稲田会長・栗田委員・田光委員・佐藤委員・村田さん(記録：古橋教頭)
 - ・ Bグループ 平尾委員・中根委員・石田委員・富田委員・岩本委員(記録：磯部教諭)
- グループでの話し合いの内容を全体で発表した。
- Aグループ
- ・ 今までの活動の成果として、学区の方の農業の話聞くことができ良かった。寺社では自然や歴史を学ぶことができた。また、企業も地域貢献として参加してくれた。スポーツやオペラ等、他のプロの方の話も聞けるのではないかと思う。プロから話を

聞くことで本物の良さが分かり、考える力を育む事ができ、子供たちの視野も広がる。支援に参加してくれた民生委員やお話の会の方々も、一緒に楽しんでくれた。

- ・見直しをしていきたいことは、早めに学校の方針が分かると準備ができる。第4回の時に次年度の年間プログラムがあると良い。委員も学校からの待ちではなく、自発的に紹介するのも良いと思う。また、現在の課題として、地域のつながりが希薄であることや子供たちの遊びの変化があり、恵まれている面と失っている面とがある。
- ・今後、継続や新たに取り入れていきたいことは、今の子供たちの幸せについて考えることが必要だと思う。地域で子供を守っているという意識が低いと感じるので、ながら見守りが大切だと思う。また、子供同士で遊ぶという感覚も薄らいでいると感じる。学校が子供にとっても大人にとってもコミュニティの場になるようにしたい。学校が地域のいこいの場になり、学校、地域、協働センターが一体となることを目指していく。

Bグループ

- ・今までの活動の成果は、委員になったことで教育活動の意味が分かるようになった。学校行事を通じてCSの取組の見える化ができ、行事や与北カフェでコミュニケーションを取ることができた。学校のニーズを地域に展開することができた。また、先生方の大変さがわかり、応援団になろうと思った。先生が元気になると子供が元気になる、そして未来が明るくなる。
- ・見直しをしていきたいことは、CSの取組をさらに見える化し、学校の求めるものを社会に広めたい。ひだまりを有効活用することと、協力体制を作りたい。
- ・今後、継続や新たに取り入れていきたいことは、学校と地域、企業といった団体をつなげ、互いの求めるものをマッチングする仕組みを作ることができたらと思う。与北カフェやコミスクカフェに委員以外の保護者も来てもらえるように、ひだまりを活用して子供たちの作品などを掲示したり、ひだまりという部屋に興味を持ってもらえるように部屋作りを工夫したりしたい。また、応援団として情報を共有し、協力体制をしっかりと作りたい。支援に参加してくれた企業等を登録するなど、誰が見てもわかるようにしたい。さらに、教職員、子供、地域、CS、幼小中と、世代を越えたつながりを目指していきたい。

13 その他、連絡事項等

浜松市教育委員会の堀田指導主事より、学校支援活動で子供たちの自己肯定感が高くなる。本校が雰囲気の良い学校運営協議会だという話があった。

教頭より、次回会議は2月19日(月)13時45分からひだまりで開催する旨の報告があった。